

平成19年3月20日

オフィス・オートメーション学会  
(日本情報経営学会：平成19年4月1日)  
会長 遠山 暁 殿

倫理綱領検討委員 (あいうえお順)  
島田 達巳 (摂南大学)  
松田 貴典 (大阪市大学)  
水尾 順一 (駿河台大学)  
村田 潔 (明治大学)

## 日本情報経営学会「倫理綱領」策定報告

### 1. はじめに

オフィス・オートメーション学会は、「オフィス・オートメーション」という概念のもとに1979年(昭和54年)に設立され、現在1000名の会員の規模になりました。しかし、ICT(情報通信技術)の発展はめざましく、その戦略的活用は「オフィス・オートメーション」の概念を大きく変化させ進化させてきました。そこで、昨年の総会におきまして「情報経営」という新たな概念のもとで、実践的実務と情報の理論研究をおこなってゆくことになりました。そして、2007年(平成19年)4月1日より学会名称として「日本情報経営学会」に改定し、新たな進歩を遂げてゆきます。また、この機会を契機として「倫理綱領」の制定をはかってゆきます。

本書は平成19年3月20日に策定しました「日本情報経営学会倫理綱領」(原案)の策定につき報告書です。

### 2. 倫理綱領検討メンバー

倫理綱領検討メンバーは、「倫理綱領」の原案を検討するために遠山会長より依頼された者であり、新たな日本情報経営学会にふさわしい倫理綱領の制定の準備と原案の検討をおこない、平成19年3月20日に最終案を策定しました。

#### 【原案作成】

会長推薦

- ・ 松田貴典(大阪市立大学)

#### 【検討メンバー】 (あいうえお順)

- ・ 島田達巳(摂南大学)
- ・ 水尾順一(駿河台大学)
- ・ 村田潔(明治大学)

#### 【事務局】

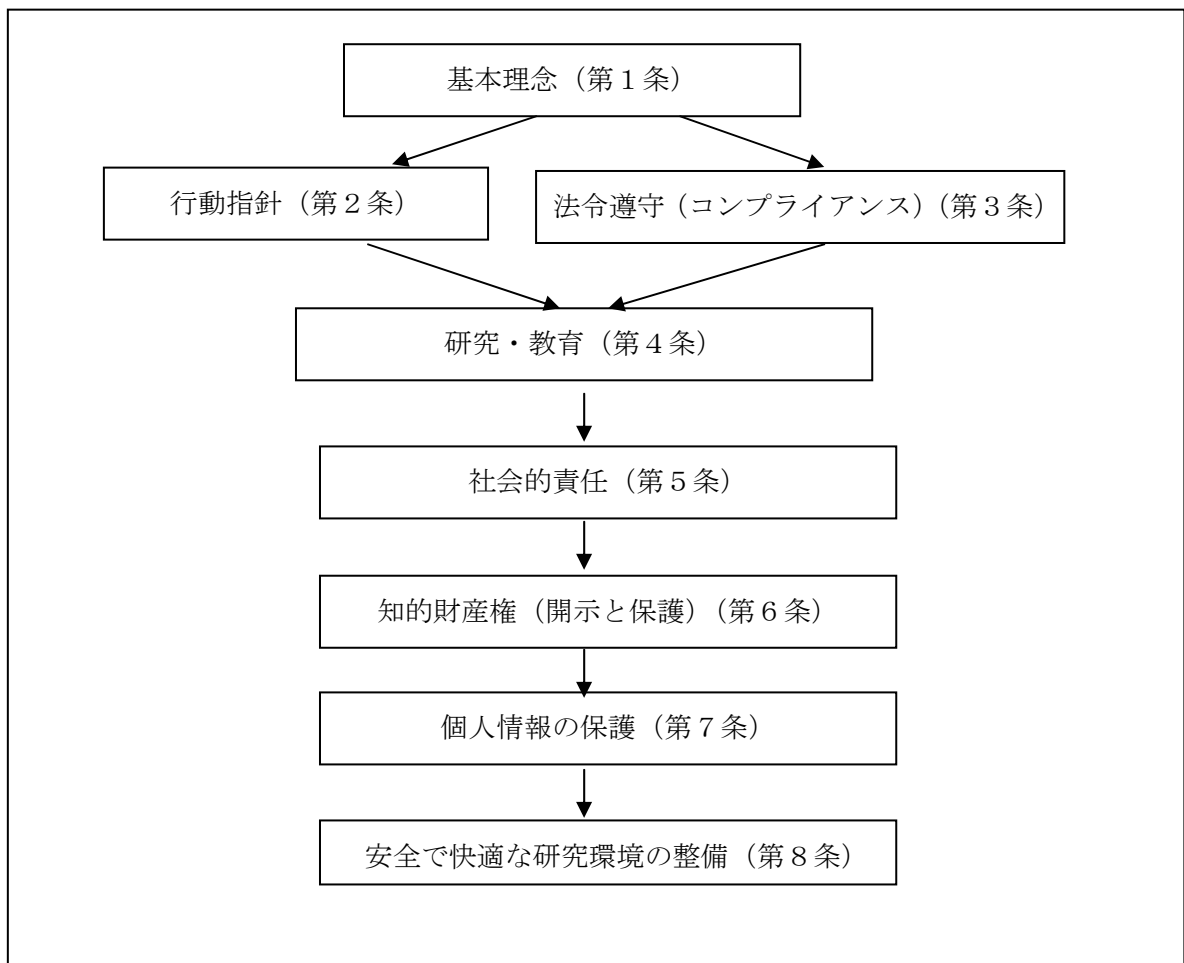
- ・ 椎原正次(大阪工業大学)

### 3. 策定までの経緯

- ① 松田は12月に「倫理綱領」の原案を作成する。
  - ・ 原案を遠山会長に送付して、暫定評価を受ける
- ② 遠山会長より、検討メンバーに原案の検討委員のアサイン
- ③ 電子メールにての討議
  - ・ 検討メンバーは、倫理綱領原案を検討し、松田宛検討結果を送付
  - ・ 検討結果にもとづき、改定案を検討委員提示
- ④ 3月18日に「倫理綱領」（検討委員会案）を会長及び事務局に提出
- ⑤ 会長より学会理事会に「倫理綱領」（検討委員会策定）を提出して承認を得る予定。

### 4. 倫理綱領概念フレーム

倫理綱領の全体的な概念フレームは、基本理念（第1条）を上位に、密接に関連する行動指針（第2条）及び法令遵守（コンプライアンス）（第3条）におき、個別の項目（研究・教育、社会的責任、知的財産権、個人情報保護、安全で快適な研究環境の整備）を順次条文化しました。



## 【個別検討項目】

個別項目では、以下の内容を織り込むこととしました。

### ① 倫理綱領の位置づけ

倫理綱領には、大きく①基本理念のみを記述するもの、②会員の行動規範として記述するものがあります。今回の倫理綱領は、基本理念のもとに、会員の行動規範を示したものとして位置づけます。

### ② 基本理念

倫理綱領の根底に底流する概念であり、学会のミッションや事業内容を考慮し整合性をもたせる。

- ・ 人類の発展、社会の安全、幸福と福祉に貢献する
- ・ 学術・文化の発展に寄与
- ・ 学会の名誉を重んじる
- ・ 品位を重んじる

### ③ 行動指針

- ・ 責任ある行動、高潔で誠実な行動
- ・ 他人の人格を尊重し、傷つけない発言・行動
- ・ ゆとりと豊かさの実現
- ・ ワークバランスへの取り組みと貢献

### ④ 法令順守（コンプライアンス）等

- ・ 学会会員としての法令・規程の遵守
- ・ ルール・マナーの遵守
- ・ 学会名称の利用，自己又は他人の利益誘導の禁止

### ⑤ 研究・教育等

- ・ 情報経営学の確立と発展に向けた研究・教育
- ・ 他者の研究・教育への敬意
- ・ 成果の公表と社会への還元

### ⑥ 社会的責任等

- ・ 自らの言動に責任を持つ
- ・ 研究の成果がもたらすリスク、社会的責任の自覚を促す
- ・ 環境・社会への配慮

### ⑦ 知的財産権等

- ・ 情報の利活用にあたって自己の知的財産の保護の努める
- ・ 情報の利活用にあたって他人の知的財産の侵害をしない
- ・ 企業や組織の保有する知的財産の保護に努める
- ・ 他人の情報への不正なアクセスの禁止
- ・ 他人の研究・創意工夫を尊重する

### ⑧ 個人情報の保護等

- ・ 個人情報や機密情報の保護
- ・ 他者の生命、財産の保護、名誉、プライバシーの尊重

### ⑨ 安全で快適は研究環境の整備等

- ・ ハラスメントの予防
- ・ オープンなコミュニケーションと安全で快適な研究環境の整備

以上, ご報告いたします。

**【関連参考資料】**

(1) オフィス・オートメーション学会ホームページより引用：

<http://wwwsoc.nii.ac.jp/oa/> (2006年12月17日アクセス)

(2) オフィス・オートメーション学会の事業

(3) オフィス・オートメーション学会プライバシーポリシー